

「寛容」

2015年3月21日(土)

会場：アークヒルズカフェ (六本木)

参加：15名

司会・文責：野田

1. 概要：

- ・類似の行為と何が違うのか、良い寛容とは何か、寛容になるためには何が必要かについて議論しました。

2. 寛容という言葉の持つイメージについて

- ・ 寛容という言葉は外国の宗教と共に使われることがある。カトリックの方がプロテスタントよりも寛容だ。聖書やローマ法王について言及されるときに使われる。
- ・ 教育に関連してゼロトレランスという用語が、法律において、司法的修復という用語がある。
- ・ 寛容という言葉について良く知らないため、無関心になる。
- ・ 民族、宗教問題に関連して語られることが多く、日本は民族問題、宗教問題が少なかったため、寛容が問題になりにくかった。(報告者注：日本でも民族、人種、性別による差別など問題は多くありますが、寛容の文脈で語られることは少なかったと思います。)

3. 寛容とは何か

- ・ 笑顔であること。
- ・ 寛容は許すことであり、上から目線、または対等の目線である。
- ・ 許すことを目的にしていない。
- ・ 受け入れること、受容することである。受け取ってから許すこと。
- ・ 暴力を抑制するための段階である。
- ・ 寛容により、葛藤が少なくなると楽である。
- ・ 人間関係を作っていく過程である。
- ・ 対話に参加することを認めることである。
- ・ 社会の構成員として認めること。
- ・ 大きな集団における寛容と、普段の人間関係における寛容がある。
- ・ 集団における寛容でも、個人レベルに落とし込める。
- ・ 違いを認めること。欠点を含めて、存在として認めること。他者を他者として認めること。
- ・ 他者との間に違いがある、一致しないということを経験すること。
- ・ 違う価値観が共存するという人間観である。
- ・ 状況によって善悪の判断は変わりうるので、違う意見があっても迫害や非難をしないこと。
- ・ 集団における異質さがコンフリクトを招く。異質な他者に関与し、存在を否定しないことである。
- ・ 寛容は我慢にちかい。欠点に対し、判断を停止する。お互いに判断を停止することでギブアンドテークの関係を構築する。グループの一員としてグループから逃げられないから、寛容は必要となる。(提唱者一人、反論多数の意見)
- ・ 違う意見をとがめないこと。しないことであるため、行動ではなく態度である。
- ・ 異質な他者との間に、自分との共通項を見出すと、受け入れることが出来る。自分に引き寄せることが出来る。
- ・ 他者を詳しく知ること、他者の行動の背景にある考えを理解することが出来ること。
- ・ 知性に訴えて、同情するという感情を促す。
- ・ 環境により獲得した道徳観、正義感、公平性を持っていること。
- ・ 他者が寛容な態度であるかどうかは、寛容な態度を示しているように見えるその人がどのように考えているかを知らないと判断できない。従って、寛容という言葉は厳密には自分にしか適用できない。
- ・ 寛容は、態度ではなく、行動で示される。

4. 寛容と逆のことは何か

- ・ 逆の言葉は批判や責めること、非難すること。
- ・ 排除、拒絶。
- ・ 無関心。

5. 似ているが異なること

- ・ 寛大。寛容と違って許しすぎている。
- ・ 許容。受け取っているだけ。

6. まとめ：

- ・ 寛容という言葉はあまり身近でないですが、参加者の方は積極的に掘り下げて考えていました。笑顔や許す、といった個人的な行為や態度から考察する観点、暴力、人間関係、集団、社会などの関係性から考察する観点、公平性や正義といった理念から考察する観点など、多様な観点から掘り下げました。

以上